

会 議 録

会議名 (審議会等名)	令和5年度 第1回キャリア教育推進委員会		
事務局 (担当課)	学校教育課 電話042-769-8284 (直通)		
開催日時	令和5年5月24日(水) 10:00~12:00		
開催場所	相模原市立産業会館 2階 展示室		
出席者	委員	20人(別紙のとおり)	
	その他		
	事務局	11人 学校教育課 6人 教育センター 5人	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
議題	<p>1 確認事項</p> <p>(1) 本市キャリア教育と令和5年度の日程について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本市キャリア教育について ・さがみプロジェクトランドデザイン ・令和5年度キャリア教育推進の位置関係図(市内) ・令和5年度キャリア教育推進委員会等日程について <p>(2) 令和5年度キャリア教育の方向性について</p> <p>2 協議</p> <p>(1) 「本市の子どもたちが、夢ややりがいをもって豊かな人生を送るために、何ができるか」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度キャリア教育推進の方向性 ・令和5年度キャリア教育推進の重点施策 		

議 事 の 要 旨

[議事内容、質問及び主な意見] ●委員 ○事務局

1 開会

(1) 学校教育部長あいさつ

今回の推進委員会については、対面で実施するとともに、市民の皆様に対し、キャリア教育の理念を広く周知するために、傍聴席を設けての開催とさせていただいた。本市では第二次相模原市教育振興計画において、「共に認め合い、現在と未来を創る人」を目指す人間像としており、三つの基本姿勢のもとで、教育施策を展開している。キャリア教育の推進は、教育方針1、目標1「未来を切り開く力の育成」を筆頭の施策に位置付けられている。現在、学校現場においては、これまでに制限されていた教育活動について、学びのあり方を進化させながら、積極的に教育活動を実施しているところである。

令和4年度はキャリア教育で身につけさせたい、「つながる力」、「自律する力」、「乗り越える力」、「見通す力」のもと、学校、地域、保護者、関係機関の皆様と、本市の子どもたちが夢と生きがいをもって、豊かな人生を送るために何ができるかという思いを共有しながら、教育活動を充実、改善させていく1年であった。今年度は、本市におけるキャリア教育の推進の方向性として、小中9年間、学びの連続性を重視する縦の接続、学校と地域の連携、協働を推進する横の連携、この二つの方向性に基づいて進めていきたいと考えている。

本日お集まりいただきました藤田教授、原教授をはじめ、関係団体、関係各課の推進員の皆様からご意見をいただく中で、令和5年度、本市のキャリア教育の推進を、さらに充実した取組にしていきたい。

2 確認事項

- (1) 本市キャリア教育と令和5年度の日程について
- (2) 令和5年度キャリア教育の方向性について

○「資料1-1」、「資料1-2」、「資料1-3」、「資料2」、「資料3-1」、について、事務局から説明

●「1 学校キャリア教育全体計画・年間計画の作成・実施」等について (内村委員)

- ・中学校では、中学校2年生で職場体験を行っている学校が多いが、過去数年はコロナの影響もあり、学校外に出での体験活動ができず、地域の方を招く形をとっていた。昨年度あたりから従来形の形に戻りつつある。
- ・中央中学校においては、今年度から3日間の職場体験を計画しているが、受け入れをしてもらえぬ企業を探すにあたり、保護者に紹介をしていただくような働きかけをしている。今後は、様々な機関にご協力とお知恵をいただきながら、取組を進めていく必要があると考えている。
- ・キャリア・パスポートについては、生徒が立てた目標に対して、担任がコメントを入れて生徒に返している。具体的には、「今後、(目標に向けて)こんなことが具体的にできるのではないかな」や「目標が実現するとこんな姿になっていくよ」といったアドバイスを入れており、今度はご家庭に返して保護者と連携するという段階になっている。小学校、中学校とも同一歩調でこのような取組を行っていくつもりである。
- ・今月の下旬に小中一貫の日が設定されているが、中学校区の小学校、中学校ともに(人事異動で)人が多く入れ替わっているため、キャリア教育の目的、キャリア・パスポートの使い方といったところを、もう一度共通確認するための研修を組んでいる。
- ・中央中学校区はコミュニティ・スクールであり、学校運営協議会が設定されている。この会を「Ai-R NET」と呼んでいる。「Ai-R NET」の取組として、教室を四つに区切り、学校に来ることのできない生徒の居場所を作ろうという取組をしている。この取組は、運営協議会のメンバーの方々を中心に活動しているが、他にも、NPO法人の方、それからフリースクールの方、主任児童委員の方、ボランティアの大学生の方などに関わっていただいている。当初、見込んでいたよりもたくさんの生徒が居場所を求めてきている状況があり、施設が狭く感じられるようになっていく。ここに、居場所を求める生徒の特性を考えると、あまり他の生徒の目に触れないところな

どの制限があり、どこで活動するのかということが悩みの一つである。

- 運営については、これまで教員がかなり関わり、外部の方と一緒にあって、生徒のサポートを行っていたが、働き方改革の視点を取り入れる必要がある。今後は、市内にある幾つかの大学を訪問し、取組の趣旨を説明するなどして、学生の方に協力いただけないかというお願いを、できれば教育委員会の方と一緒にしていきたい。
- 教員不足の解消に向けては、例えば、「Ai-R NET」や部活動を手伝ってくれる大学生ボランティアに対し、採用試験においてポイントを与えるなどの優遇をすることで、積極的に学校の中に入って仕事をさせていただくような制度を作れないものか。ここ近年の教員採用試験の倍率の低下などを鑑みると、手をこまねている段階ではないと思う。

● 「2 小中一貫の取組」について

(清水委員)

- 中野中学校区「学びのスタンダード」について、後ほど資料を確認してほしい。
- 10数年前までは中野中学校は生徒指導上、困難な時があった。また、近隣の小学校もまったく同じような状況であった。学習がわからないことから授業に参加できない生徒と、教員と一緒に勉強することによって、喜びとか、または学ぶ楽しさを感じられるようにしていこうという大きなねらいがあったような気がする。その取組を根気強く続けていった結果、学校はとともよくなった。
- 中学校区において、「学びのスタンダード」を推進するために、教育活動を「学び」と「育ち」に分けて取組をしている。
- 中野中学校では、GIGAスクールの取組を推進している。文部科学省の **leading** 推進校の指定を受けており、市内でもICTの活用を積極的に推進する役割を担っている。
- キャリア教育の一番重要なところは、すべての子どもたちをどう育てていくかということだ。
- 中野中学校区では、「聞くこと」「話すこと」が課題であることがわかり、「聴き方」、「話し方」を四つにわけて、この力を伸ばすことを中学校区全体で進めている。
- 「話すこと」と「聞くこと」の取組が着実に進んでいるかを把握するために、GoogleのFormを使って、アンケート調査を行っている。子どもたちが自己評価することで、その後の改善に生かしている。
- これらのアンケートの結果は、教科ごと、クラスごとに集計して分析を進めていく。その上で、(これまでと比較して)何が良くなったのか、何がまだ課題なのか、ということ子どもたちと1週間ほどかけて話し合い、次の月の目標につなげていくという取組をしている。
- キャリア・パスポートの取組を通じて、夢を漠然と語るだけでなく、何年か後にこういう人になりたい、こういう大人になりたいということを具体的に語れるような取組にしていきたい。
- 「つながる力」に関わる質問項目を、小・中で一貫したものにし、毎月アンケートを実施することで、子どもの個人の変化を見ていきたいと考えている。また、このような資料は、3者面談などで活用している。

● 「4 小学校校長会での取組」について

(神原委員)

- 中学校区で9年間を見通して、子どもたちに学び合いの学習を活性化させ、主体的・対話的で深い学びの実現を目指しているが、このような取組が小中で一貫していることが大切だと考えている。小学校と中学校が足並みをそろえていくというところが、すごく大事なのだと感じている。
- 「話し方」「聴き方」の取組を、特に学級活動の中で、全校で統一して取り組むことで、「上級生はあのような話し方をするのだ」や、「こういう聞き方がすごいやさしい聞き方なんだな」といったことを子どもたち一人ひとりが実感をもって体験していくことができた。子どもたちの聞き方や話し方は格段に上手になってきたと考えている。
- 「話し方」「聴き方」が上手になったことで、子どもたちの学習に向かう姿勢は大きく変わった。また、その姿を中学校区の先生方に参観してもらうことはとてもよい取組になったと感じている。
- 静岡県に、小・中で一貫した取組をしている学校の視察に行ってきた。このような取組も共通理解を図り取組を進めていくためにはとても重要であると考えている。
- 小学校校長会の教育課程研究部会においては、校長としてどのようにリーダーシップを発揮していけばよいかということ、教育委員会と連携しながら研究を進めているところである。

- キャリア教育については、どのような取組をするかということよりも、日常的に行っている教育活動がすでにキャリア教育につながっているということに自覚することが大切で、そのような視点を教員がもてるように意識改革を図っていくことがとても大事なのだと感じる。このような意識改革を図るためのリーダーシップを校長が発揮するべきであると考えている。
- キャリア教育が進んでいるかについて、実感をもてるようにするための評価として、どのようにすればよいかについて、田名小学校の松本校長先生に講義をしていただいた。このようなことについて、校長も理解を深め、研究を進めているところである。

● 「5 キャリア教育の視点に基づく授業づくり」について
(奥津委員)

- 相模原市では、授業づくりについて、「スタートとゴール」をキーワードにして授業改善を進めている。
- 各教科等でめざす力の育成をした上で、学習活動の中にキャリア教育で育む力に関連するものがある場合、その価値をきちんと子どもに伝えていくこと、その価値を子どもに考えさせることが大切であることを先生方に伝えている。
- 教科で身につける力の育成をスタートとゴールという言葉でキーワードにして行い、その上で、キャリア教育で育む力を意識するというようなメッセージを伝えている。
- このような取組が、意図的そして計画的に行われるように、中学校区担当指導主事による研修を実施したり、オンデマンド研修動画を作成して、校内研修の支援を行ったりするなど、取組を進めている。
- 教科の目標もキャリア教育で育む力も、子どもたち一人ひとりにとっては自分らしく生きていく上で、とても大切なものであると考えている。先ほどの清水校長先生、神原校長先生の話とも共通するところだが、日々指導する先生方一人ひとりが、その価値に気付くことで、授業のあり方や、子どもとの接し方、関わり方が変容していくと思っている。
- 研修では先生方の気付きの視点を、「キャリアの眼鏡」という言葉で表現をしている。授業づくりにおいて、「キャリアの眼鏡」をかけて、意図的な指導が行われるよう、今後も支援をしていきたい。

● 「令和5年度キャリア教育の方向性」や「縦の接続」について
(藤田委員)

- 相模原は、日本を代表するキャリア教育の推進地域なのだと感じた。
- この会自体の存続は非常に重要だと感じる。キャリア教育に関わりのある多くの方々が、一同に会してこれだけの時間をかけて議論をしているということに敬意を表する。
- 資料3-1がとてもわかりやすい。市の重点施策ともリンクしていてとてもよい。
- 資料3-1の課題①と課題②は、それぞれ別のものでなくて、リンクしてくる課題であろう。具体的に言えば、各学校で育てる力は、その地域の小中一貫のチームで目指す児童生徒像であり、それこそがその地域におけるキャリア教育理念なので、目の前の子どもたちをどう育てるかを中学校区のみinnで共通理解しようとすれば、自ずと課題①と課題②は結びついていくことになるであろう。
- 資料の1-3の見せ方は工夫が必要である。キャリア教育のイメージが単に職場体験の取組を進めればよいというような誤解を受けることのないように、「職場体験支援事業実行委員会」という部分の標記に工夫をしてほしい。
- 職場体験を実施する際は、設置要綱第1条の理念「小学校、中学校及び義務教育学校の児童生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら…」を確認し、そのために職場体験を行っているということを意識しなければならない。いわゆるニートフリーター対策の、働くという言葉だけを伝えるのではなくて、キャリア教育の一環としての職場体験の在り方を大切にする必要がある。

○ 「資料3-2の1番～7番」について、事務局より説明

● 「8 消費生活出前講座等」について
(菊地原委員)

- 近年、子どもたちによるインターネットを活用したゲーム等への高額な課金の問題がある。この

ような状況に対応するため、小学生、中学生、高校生を対象に36回の講座を開催している。

- ・今年度も引き続き、希望のあった学校に対してこのような講座を開催していく予定であるが、この講座が広く知られていないことが課題となっている。今後も引き続きPRを行っていきたい。
- ・このような活動を通じて、子どもの自己管理能力を身に付けられるようにしていき、キャリア教育の視点で見ると、「自律する力」に寄与できるような取組をしていきたい。

●「9 障害者への理解を進める取組」について

(中村様) 沼田委員代理

- ・高齢障害者福祉課では、「障害者週間のつどい」を実施している。障害の有無に関わらず、互いを尊重しあえる共生社会を実現するために、障害の理解促進を目的としている。
- ・令和2年度から令和4年度までは、新型コロナウイルスのため中止となっていたが、令和5年度については、二部構成で開催する予定で準備を進めているところである。
- ・第一部については、心の輪を広げる体験作文及び障害者週間のポスターの入賞者の表彰式を行い、第二部には障害の理解を進めるような講演会であったり、パフォーマンス等、見ていただいたりして、参加していただいた方に障害というものを知っていただいたり、興味をもつきっかけとしていただいたりするようにしたい。

●「支援教育の視点」として

(村山委員)

- ・障害者にとっての自立支援、自立の促進の定義はそれぞれ違う。例えば、会社に最終的に就職するというのもその一つかもしれないが、たとえ企業に就職、就労できなくても、社会との関わりやつながりをもって、他者との関係性の形成ができて、その人なりの成果や社会貢献を行うことが、充実した人生とつながって、共生社会の中でいけることも大切なものと思っている。
- ・成人の障害のある方を支援することが多く、その方が学齢期や幼少期、どういった教育やキャリア教育を受けてきたかを想像しながら、支援をさせていただくことがよくある。その際、様々な理由でキャリア形成がうまくできなかった場合に、困難な問題を引き起こしてしまう原因につながってしまったり、過剰に人の助けを借りないと生きられなくなってしまうケースが多いように感じる。
- ・自己理解力、キャリア形成力、自己マネジメント力などの重要な要素については、障害の有無に関わらず、キャリア形成に大切なウエイトを占めていると感じる。その大切な時期が幼少期、学齢期のライフステージであると感じている。
- ・そこで大事なのが、家庭や地域でのサポート、体験や経験などの様々なカリキュラムであり、そして、先生方の温かいバランスのとれた教育によるキャリア形成。これがとても大切なことであると感じている。
- ・どのような障害があっても、たとえ無理じゃないかと思われるようなことでも、その人に身に付くことを少しずつ身に付けさせるような取組を続けていくことが大切なのだと考えている。

●「10 子どもの居場所づくり」について

(馬渡委員)

- ・コロナ禍で、こども食堂の取組の開催が難しかった。今後は、新たな立ち上げなどについて、支援を行っていきたいと考えている。
- ・子どもの居場所として、学校でも家庭でもない、一つの地域が考えられる。その中で高齢者の方や異なる学区の子どもたちと触れ合うことで、新たな人間関係を作る力をつけたり、社会性を育んだりすることにつながると考えている。

●「11 企業との連携」について

(草薙委員)

- ・アントレ・プレナー体験事業について、小学校5・6年生を対象として、将来、産業を支える人材育成を図ることを目的としている。会社を起こすところから、原材料の仕入れや商品製造・販売、経済の流れ、仕組みを疑似体験する事業である。
- ・6月1日から募集を開始する。毎年、百数十人の応募をいただいております、大変人気のある事業と

なっている。

- ・アントレ・チャレンジプロジェクトについては、大学生を対象としている。企業の企画や運営を通じて、起業家精神や社会性を養うほか、経営者との交流を通して社会人としての思考や行動を知ることができるものとなっている。こちらもすでに募集をしており、現在20名ほどの応募があった。

●「青年会議所が行っている事業を通して、子どもたちに育てたい力など」について
(村上委員)

- ・5月13日、14日に青少年相談センターの方と相模原市内の児童養護施設の子どもたちと協力して、子どもたちから集めた絵を大きな作品として作るというイベントを行った。自分たちで考えたものをみんなで協力して作るという取組で、描いた絵は人気ランキングをつけて、人気の絵を描いた1位から3位の子どもを市長に表彰していただいた。
- ・ディンプル・アートに子どもたちと一緒に取り組んだが、すでに何度か体験している子どもたちが、当日参加した1,000名の子どもたちにやり方を伝え、最終的にすべての絵が完成するという、成功体験を感じていただけるイベントになった。
- ・9月にお祭りを開催する予定である。今度は、子どもたちが考えたメニューを実際にお祭りで提供をするという、イベントの実施を考えている。自分たちで考えたことを実現することを通して、「乗り越える力」の育成につなげていきたい。

●「12 家庭教育」について
(松本委員)

- ・家庭教育に関する支援を事業として実施しており、家庭や地域の教育力の向上につなげていきたいと考えている。
- ・相模原市PTA連絡協議会に委託して家庭教育講演会を実施していただいている。市内11ブロックの各地区において、家庭教育に関する講座やセミナーを実施していただいている。令和4年度についてはコロナウイルスに関する制約もなく、すべての地区で開催ができ、令和3年度に比べてかなり増えた。
- ・公民館委託事業については、連続した5回～6回の講演を行っている。参加されている方々のネットワークができ、お母さん同士のつながりももてるなどの効果がある。令和4年は予定していた6つの公民館で実施することができた。

●「PTA連絡協議会での取組」について
(中村委員)

- ・11のブロックに分かれ、家庭教育事業として、講演会などを実施している。昨年度は、ノジマステラの監督や選手に来ていただいた。夢が実現した姿を実感できるような取組となっている。
- ・課題としては、コロナ禍において、このような取組をどれくらい実施していけるかということである。
- ・各ブロックのPTA会長が集まって勉強する機会を設けているが、このような活動を通じて、大人自身も学んでいくことが、子どもたちのためになるということを実感している。これからもこのような啓発活動を続けていきたい。

●「法人会の取組」について
(鎌倉委員)

- ・民間企業の目線を見た場合、コミュニケーション能力、協調性、このような力を身につけた子どもたちが社会に出てきて欲しいと切に感じている。
- ・コミュニケーション能力については、人に伝える力、他者の話している内容を正確に理解する力が特に重要だと感じている。
- ・法人会においては、これまで、職場体験の受け入れ可能な会社数が3300社弱あるので、キャリア教育に繋がればという思いで活動をしていた。残念ながら、おそらく実績上まだ紹介できてないと思われる。
- ・今後は、職場体験の受け入れを実現させていくことと、「何のために職場体験を行うのか」という目的を大切に、校長先生方と相談しながら進めていきたい。

●「公共職業安定所の取組」について

(岡本委員)

- ・「発達に課題がある児童生徒のための職業自立のための保護者セミナー」を2月21日に実施したところ、大盛況であった。当初60名の参加を予定していたが、関係機関の参加者を合わせて100名程度の参加があった。うち、保護者は72名、関係機関の参加者は30名程度であった。
- ・5名の講師がそれぞれ10分程度話をした後、15分位のシンポジウムを行った。保護者の皆さんはすごく熱心に聞いてくださった。それぞれ自分のお子さんに対して抱えている発達や将来の悩みや不安を感じている。
- ・アンケートをとったところ、「また開催して欲しい」「すごく勉強になりました」といった声がたくさんあった。
- ・小学校の保護者の参加が一番多かった。小学校の保護者の関心が高いことに驚いた。
- ・今年度は、12月頃に開催予定。教育委員会や関係機関の方々に協力をいただき、参加者の募集を呼びかけたい。

●「キャリア教育を進めるにあたっての、本市の学校の取組や各関係機関との連携」について

(原委員)

- ・数年前、相模原市がキャリア教育について説明をする際に、海賊船をモチーフに、色々なクルーが集まって、荒波を乗り越えて自律する児童生徒を育てるというイメージ図が提示されたことを思い出した。
- ・相模原市のキャリア教育は、一人の先生の個の力を利用するのではなくて、経済界等の各関係機関を巻き込んで皆で推し進めていく、日本でも最先端をいく教育だと感じる。
- ・当時、キャリア教育の取組が始まったときに、先生方から、「これができない」「難しい」といった意見が聞かれる中で、PDCAではなくてSDCA(Sはスタンダード)を作るべきではないかという話があったように記憶している。私はスタンダードを作ってスタートすることで、それ以上の大きな広がりがなくなってしまうのではないかとというように危惧していた。しかしながら、現在は、スタンダードを基にしつつも、各学校の実態に応じてPDCAサイクルを回すという考え方になっているところが非常によいと感じる。一つの学校の取組が事例として大きく膨れ上がり、それを学びとしてその他の学校が取り入れていこうという動きになっていることは評価できる。
- ・次の過程としては、SDCAサイクルにおけるスタンダードを作り、スタンダードが定着した後はそれを継続していくという好循環を生み出していけるとよい。
- ・キャリア・パスポートについては、金太郎飴集団を育てるためのものではなく、それぞれの個性を伸ばしていくためのものである。この教育の理念は、どこかで繋がっていかねばいけないことであり、先生方には児童生徒それぞれのよさを認める指導者になっていただきたい。
- ・先生にとって都合のよい生徒を育てようとするのは、キャリア・パスポートの理念からは外れると思うので、十分に留意し、教育活動に取り組んでいただきたい。
- ・コミュニケーションについては、簡単に言えば、規制をかけないこと、或いは見て見ぬふりする、から始める必要がある。過度な規制や管理は、コミュニケーションを取りづらい方向に向かわせることにつながる。
- ・色々な事情でマスクを着けている方がいることは承知しているが、人の顔や表情を見るなど、五感を使って感じる訓練をすることは、コミュニケーション能力を伸ばす一つの方法になると考える。大人が率先してマスクを外す文化を作っていくことが大切だと思う。
- ・民間に優秀な人材が流れ、教育現場に教育者になろうという志のある若者が、教育学部の学生の中にも非常に少なくなっているという実態について、非常に危惧している。
- ・対応の具体策として、例えば、採用試験を4月に行うのではなくて、3月に実施するといったことを検討してもよいのではないかと。或いは、それが制度上難しいのであれば、大学3年生の学生に登録制度というのを設けて、個人を登録させることで、受検者数を確保するというような工夫もあると考える。
- ・さらに言えば、もっと先生方の給料を増やし、2倍、3倍払うべきではないかとも考える。現状は、実際の労働時間で給与額を割ったら、時給数百円ということも起こっているのではないかと。
- ・本日の会議は、このような意見を言う場ではないかもしれないが、このような場で声を上げてい

かなければこの問題は解決できないと考える。また、よい教員が入ってこなければ、キャリア教育についてもよい方向に向かうことはできないと思う。

3 協議

「本市の子どもたちが、夢や生きがいをもって豊かな人生を送るために、何ができるか」

○「資料4、資料3-1、資料3-2」について、事務局より説明

(中村委員)

- ・職場体験について、他市では5年連続で職場体験の受け入れをした企業を表彰するという取組がある。企業によっては、面倒だから受け入れをしたくないという場合があるので、紙切れ1枚かもしれないが、賞状を出すことによって快く受け入れをしていただける企業を増やすとよいのではないか。
- ・建物が綺麗でない学校がある。先生を目指している方がいて、そのような学校を見た場合、この行政区でお仕事をしたいと思わないのではないかと思います。ハード面においても、少しでも急いで改善していくことが大切だと考える。このような取組が、先生のマンパワーを確保することにつながる。
- ・学校を訪問した際、職員室に誰もいない、管理職が授業をしているような状況がある。このような状況は、保護者としてはとても不安である。何とかしてかなければならない課題であると考えられる。
- ・登下校の際に、先生方が旗振りをして児童の安全を見守ってくださっているのはありがたい。このようなことに保護者が気付いていないケースもあると思うので、PTAとしてはこのようなことも保護者に発信していく必要があると考えている。保護者としては、先生方がより働きやすい環境にしていきたいと思う。

(清水委員)

- ・学校現場の取組について、「実施すること」が目的になっていて、「何のために」「教育活動から何を得るのか」ということに対する意識が薄い。
- ・中体連の会長が、「部活動はキャリア教育だ」ということをよく話す。しかしながら、結果を求め過ぎるあまり目的を見失うようなことがあると、キャリア教育の理念やねらいをも見失ってしまう可能性がある。やはり、教育活動を行うに当たっては、理念や目的を明確にもち、教育を作り上げていかないと、変わらないのではないかと考える。このようなことを職員には話しているが、なかなか意識を変えることが難しい現状がある。
- ・本会議に出席している各関係機関の取組をどうつなげていくかということが課題である。一つひとつの機関の取組は素晴らしいと思っているが、学校現場においては、横のつながりが明確に見えてこないと活用できない。子どもに伝わるような取組にしていくためには、横のつながりを明確にしていくことが大切である。そのためには、教育委員会が中心となって、関係の構築に努めてもらいたい。

(藤田委員)

- ・先ほど、相模原法人会の鎌倉委員や公共職業安定所の岡本委員が、職場体験において最も大切な力は、コミュニケーション能力だと言っていた。これは、相模原において児童生徒に身につけさせたい力のうち、「つながる力」に相当するものである。
- ・そのような視点で資料2を見てみると、「キャリア教育の視点に基づく授業改善」の項目の中に、「児童生徒が学んだことと実生活・実社会とのつながりを実感できる授業の工夫・改善」がある。職場体験は、実生活・実社会とのつながりを実感できる非常に大切な機会なので、そこでは、実際に職場で指導してくださる方が、コミュニケーション能力が重要なのだということをいかに子どもたちに伝えるかということが大切になる。
- ・他にも、部活動において、異学年の子どもたちが、実力差もある中で、チームを組んでコミュニケーションをとり、作戦を立て、お互いに支え合うといった部活動であったり、或いは小学校のクラブ活動だったり、児童会生徒会だったり、国語の授業だったり、そのような活動の中で、人と人が繋がり、伝えていくことを学んでいき、このようなことが大人の世界でも重要なのだということを実感させることが大切である。

- ・職業体験の機会を従来型の勤労観、職業観だけを伝える機会とせず、相模原でつけた四つの力との関わりをきちんと子ども達に見せていく重要な機会だとして位置付けることが、必要であると思った。
- ・このように非常に重要な機会だからこそ、中村委員がおっしゃったような表彰制度といった工夫も重要だと感じた。表彰のような財政にあまり影響を与えないやり方であっても、皆さんの気持ちを高めていく工夫もぜひ必要であると思った。
- ・コミュニケーション能力などのつけたい力をどのように身につけさせるかということを考える上で、PDCAは重要になる。ここで、資料4に示していることが非常に重要である。目標を立てたが、立てばなしではなく、きちんと見直して、どのくらい身につけるべき力が身についたかということを見直すことが重要である。
- ・資料2のポイントは二つ。主語をつけて、語尾を上げれば、効果を検証できる発問になるかどうかを確かめることが必要である。具体的な目標を作るための提示はとても重要である。ただ、例として挙がっているものが、もっと具体的な方がいいという印象をもった。
- ・「あなたは、人や社会とつながりつづけることができますか。」という質問は、抽象度が高く、答えづらいため、もう少し、具体的で行動に現れるものにした方がよい。
- ・キャリア教育において、理念を共有するということが非常に重要である。この言葉自体は、非常に難しく感じるが、結局は、目の前にいる子どもたちをどう育てていくかということと共有することであるので、企業側からすれば、自分が協力している学校においてどのような子どもを育てたいかというキャリア教育の目標を理解し、PDCAをまわしていくことでキャリア教育は前に進み、理解は深まると考えている。
- ・そういった意味で、この身につけたい四つの力をどのように具体化するかということと、職場体験などの教育活動との関わりを見つめ直していくことが大切である。コロナを機に様々な活動が一旦中断したからこそ、仕切り直しができるチャンスなので、令和5年度の取組に生かしていければよいと感じました。

(原委員)

- ・「生徒」は「先生に従う」という徒弟制度に基づく表現であり、大学教育においては、「生きる力を学ぶ」という意味で「学生」という表現となっている。相模原市が、キャリア教育を通して、早く小・中学校から「生きる力を育む」教育に取り組んでいることに共感している。
- ・一方で、キャリア教育を自主性教育だと捉え違えると、本来は徒弟制度において、コーチング以前にきちんと「教える」ということが大切なはずであるのに、それを疎かにしてしまう可能性がある。このようなことがないということが大前提として、キャリア教育を進めていかないと、教育のベース部分がない中で、間違った自主性の理解が進み、道德感のない生徒を生み出すことにもつながる可能性があると思っている。
- ・世論調査質問事項において、「学校教育でどのようなことが大切だと思いますか」という質問に対し、「教科の学習」が一番に挙がる。これは、当然、教科の学習がベースにあって、その上にキャリア教育が成り立っているということであると考えます。
- ・ティーチングの要素にコーチングの要素が加わり、教員の皆さんの負担が増えるということになれば、これは、本末転倒となる。教員の皆さんの負担は可能な限り少なくしていかなければならない。
- ・現在、教科の学習をするにあたり、一人一台の端末が入り、インターネットが普及した中において、ティーチングの要素に関する教育の負担は軽減されているのではないかと。ティーチングの負担が減ることで、コーチング（キャリア教育）にかけられる比率が増えると考えます。バランスが大切である。
- ・部活動＝キャリア教育ではないという話があった。私もその通りだと思っている一方で、昔の体育軍事教練の中で行われていた勝利至上主義のような、指導者が一方的に教えるという取組は散見され、まだまだそういう文化が残っている。このような取組は、キャリア教育とは言わない。
- ・青山学院大学の駅伝を例に挙げると、箱根駅伝における勝った、負けたは当然必要だが、取組や運営を通して、コミュニケーション能力や経営力、分析力といったことをどのように教えるかが、我々の教育スタイルである。
- ・部活動の民営化が進み、指導者の教育が喫緊の課題となっているが、青山学院大学は、指導者の

教育メソッドも用意している。

(藤田委員)

- 相模原の先生方はここにいらっしゃるのので、この自治体がいかに、全国的に見てもキャリア教育の先進自治体かということはそれほど認識がないかもしれない。政令指定都市のこれだけの規模で市を挙げて、筆頭項目として教育改革を、このキャリア教育で行おうとすること、全体の構造をもってこれを行おうとしていることをもう一度理解することが大切である。また、推進委員会において、各部局の長や原教授を一同に会して会議がもてることは、相模原の底力である。
- キャリア教育は、これまで十分な光が当たってこなかった若者たち、例えば、障害のある子どもたち、いわゆる LGBTQ と言われる子どもたち、或いは外国にルーツをもつ子どもたちなど、社会の中で弱い立場にある子どもたちと共に、豊かなインクルーシブな社会を築いていくことが使命となってくる世代を育てなければならない。
- そういった意味では、学校教育だけではなくて、福祉も含め、すべての部局の関わりの中でキャリア教育を進めることが大切である。そのためには、この構成、この規模の会議がもてるということが必要であり、今後も継続していただきたい。また、ここでの議論が、学校にわかりやすく伝わるとともに、学校現場でどのように活用されるのかということも重要である。
- 推進委員会を開いたか開かなかったかということも重要だが、その結果、どういう成果が生み出されたかということが最も重要である。それはおそらく学校現場の先生方に、ここでの議論がきちんと伝わるのが成果の一つだと思うので、その点にも知恵を絞っていく必要がある。

4 その他

- 次回の日程は、1月24日の実施予定。

令和5年度相模原市キャリア教育推進委員出席者名簿

氏 名	所 属 役 職 等
藤田 晃之	筑波大学人間系教授・教育学類長
原 晋	青山学院大学地球社会共生学部 教授
村山 毅	社会福祉事業団 障害者支援センター松が丘園
布施 昭愛	相模原商工会議所
鎌倉 慎一郎	公益社団法人 相模原法人会
村上 翔一	公益社団法人 相模原青年会議所
岡本 愛子	相模原公共職業安定所
中村 岳彦	相模原市PTA連絡協議会
神原 由香里	相模原市立小学校長会
内村 昭広	相模原市立中学校長会
清水 俊次	相模原市立中学校長会
農上 勝也	学校教育部長
菊地原 央	区政推進課長
沼田 好明 (代理出席：中村祐太郎主事)	高齢・障害者福祉課長
馬渡 加能	こども・若者政策課長
草薙 格	産業支援課長
岩崎 雅人	教育総務室長
三谷 将史	学校教育課長
奥津 光郎	教育センター所長
松本 隆人	生涯学習課長